

ゆうあい

あなたがいて、わたし、がある。

JUNE 2025

6

vol.579

特集

新任職員紹介



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp



社会福祉法人侑愛会
6月号 令和7年6月1日発行
発行日:偶数月1日/発行者:祐川暢生/発行所:社会福祉法人侑愛会(北海道北斗市追分7丁目8番9号)

<https://www.yuai.jp/>





社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp

施設長に就任して

おひさま

小野 綾子



一步一步、歩みを進める

この度、令和7年4月1日より、児童発達支援事業おひさまの施設長を務めさせて頂く事となりました。当法人で児童発達支援の分野に従事させて頂き、23年目となります。入職当初、おひさまは、児童デイサービス風つくくみとして、函館市石川町で事業を行っていました。制度改正があり、児童発達支援事業おひさまとなり、令和2年4月、現在の北斗市追分地区に移転しました。移転に伴いまして、こども園等との連携の強化として、保育所等訪問支援事業も開設しました。おひさまは、就学前のお子さんを対象に、親子クラス(3クラス・週2回)と単独クラス(4クラス・週1回)を開設しておりまして、現在は、29名のお子さんが利用して下さっています。小集団や個別活動の時間があり、お子さん一人一人が「分かる・安心して取り組める」事を大切にしながら、身辺自立・遊び・コミュニケーション・社会性の広がりを支援しています。また、家族支援として、ご家族向けの学習会の開催や、定期的な懇談の機会を設け、ご家族の思いを聞かせて頂く事を大切にしています。更に、おひさまを利用されている約9割のお子さんが、こども園等の大きな集団や他事業所を並行利用されています。並行利用されている園や事業所と連携を行い、お子さんの様子や支援内容の共有等、地域支援にも力を入れています。現在の療育形態や支援内容が確立するまで、そして、これからも、試行錯誤の毎日です。私自身、その中で実践の道しるべとなったのは、前法人理念の「利用する方々から学び、一人一人が必要としているサポートを考え実行する」でした。入職当初から、法人理念の実践が事業所に浸透しており、自分自身のスキル不足を感じながらも、学ぶ機会が多くあり、安心感や達成感、充実感を感じながら、勤務をさせて頂いております。

昨年度から当法人の理念は、「あなたが安心して豊かに暮らせる社会を創る」となりました。新体制でのおひさまは、新しい理念の元、利用して頂く方や関係機関の方から、引き続き、早期の発達支援の事業所として必要として頂けるよう、謙虚に学び、継承する部分は継承し、建設的なアイデアを取り入れながら、チームで取り組む事ができる事業所でありたいと思います。私自身、大きな役割の変化に、不安や重責を感じる日々です。不慣れな点があると思いますが、一步一步、歩ませて頂きたいと思っております。ご指導、ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

クッキーハウス

守口 康朗



変わり続けるために、変わらないもの

この度、令和7年4月1日付けで多機能型事業所クッキーハウスの施設長に就任いたしました。平成5年に入職し、今年で32年目となります。入職当初は障がい福祉について全くの無知で右も左もわからない状態でのスタートでしたが、ワークショップはここで第2分場に配属となり、製パン作業に従事させて頂きました。その第2分場には5名の方が利用され、ダイエー上磯店内(現在のイオン)のゆうあいプラザという福祉の店で販売するパンを製造することが主な活動内容でした。現在のクッキーハウスパン工場の前身となる作業班でしたが、当時の上司、先輩から、利用者の方々と「共に働く」姿勢を学ばせて頂いたことが今の私の基盤となっているように思います。平成6年4月にワークショップはここで第3分場(現在のクッキーハウス)と第2分場(パン工場)が統合され、通所授産事業所クッキーハウスが誕生、30名の利用定員でスタートします。その後、新たに折り箱作業班が開設され、35～40名の利用定員増をしました。平成12年9月には店舗(ハーベスト)増設とパン工場の移転に加え、クッキー工場の細分化がされ、より支援度の高い方々への作業支援に取り組んでいきました。平成25年には利用定員50名を見据えた従たる事業所クッキーハウスⅡが開設されました。こちらでは製品リパック作業に加え、利用者の方々の身体的な機能維持やリフレッシュを目的とした課外活動を取り入れました。

現在は高齢期にさしかかる方々の日中活動について協議されているところです。福祉サービスはこれからも制度の変化や体制の変化等を幾度も積み重ね、利用される方々のニーズに沿って柔軟に変わる事が求められていくことと思いますが、変わり続けるためにはあえて変わらないもの、変わってはいけないものとして支援者の確かな「想い」が存在すると思っています。上司が以前、侑愛荘に勤務されていた際に感じられたエピソードをお聞きした事があります。「高齢期なった利用者の方はご自身が以前働いていた会社、事業所を自慢げに話してください。クッキーハウスもそんな事業所になればいいね。」という内容で、今でも時々振り返り思い出すことがあります。これまで歴代の施設長が積み上げてきた功績に重圧を感じているのが正直な気持ちですが、自分の代で途絶えることのないよう、支援者の「想い」を次の世代に紡いでいくことが自分に課せられた使命だと思っています。



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp